令和５年度　花巻市非核平和推進事業　「非核平和学習会」

「非核平和学習会に参加して」

～私たちが学習会で学んだことや感じたことなどをお伝えします～

戦争は想像以上に怖い

湯本小学校　６年　居舘（いだて）　龍（りゅう）　さん

ぼくは、８月５日と６日、広島に行って平和記念式典に参加して来ました。原爆ドームと資料館も、見ることができました。平和記念式典には、海外から来た人、様々な宗教の人、子どもから年配の方まで、多くの人達が参加していました。そして、資料館も多くの人たちが訪れ、大行列でした。つまり、これだけ多くの人々、違う宗教、違う文化を持つ人々、１人ひとりが「世界が平和になって欲しい」「戦争や核兵器の悲劇を二度と起こしてはいけない」と願っていることを実感しました。

式典では、３人の方のスピーチが印象的でした。

１人目は、広島県知事のスピーチです。そのスピーチは、県知事自身の本当の思いを話していると、ぼくは感じたからです。「核兵器による脅しを止められない。あなたは、核戦争が起こったとき、こうなるなんて思わなかったと肩をすくめるだけですか？」と、まっすぐにぼくの心に響きました。

２人目は、子ども代表の「平和への誓い」です。そのスピーチは力強く、そして 78 年前にこの広島で何が起きていたのか、被爆した人たちの気持ちを鮮明にお話ししていたからです。そして、「平和」とは何か、そのために何ができるのかを訴えていました。ぼくは、つながれた「いのち」への感謝と、一人一人の行動が大事、みんなを笑顔にしていきたいという願いを、強く感じました。

３人目は、内閣総理大臣のスピーチです。

スピーチの始めで、78 年前に十数万の尊い命が失われたこと、一人ひとりの夢や明るい未来が失われたことを話していました。「核兵器のない世界」の実現に向けて歩んでいくと誓っていました。ぼくは、絶対に実現していきたいと思いました。

資料館では、原爆にあった人が着ていた服、写真、使っていた物など、貴重な資料や展示物がいっぱい有って驚きました。資料は、病気の名前やその病気はどうやって発症するのか、ということが書いてありました。78 年たった今でも、どれだけひどい惨劇だったのかがわかりました。しかし、あまり時間がなくて、ひとつひとつをよく見られませんでした。次、資料館に行く時は、もっとゆっくりみたいです。

最後に、式典の中で「ひろしま平和の歌」を歌いました。初めて聞く歌だったけれど、自然と体が動き、ぼくも、平和を祈る心と共に、歌っていました。みんなの歌声が、この空に響き渡るように、「平和の祈り」が世界を包みこんでいくことを願いました。

非核平和学習会に参加して思ったこと、感じたこと

大迫小学校５年　阿部（あべ）　叶愛（とあ）　さん

私は、八月五日、六日に非核平和学習会で、広島に行って来ました。そこで私が学んだことは、二つあります。

一つ目は、核兵器のおそろしさです。核兵器という一つのばくだんだけで、一つの町が無くなるなんてとてもひどい事だと思ったし、一つのばくだんで、何万人もの命が無くなるのもひどいことだと思いました。核兵器の熱でしゅん間的に亡くなった人は、ほねも残らず、亡くなってしまったそうです。熱で亡くなったのでは無く、自分で川に飛びこみ亡くなった人も多いそうです。

二つ目は、核兵器をつかってはいけない理由です。私がつかってはいけないと思ったわけは、二つあります。

一つ目は、大ぜいの人が亡くなったということです。たくさんの人が大切な人をなくして悲しんでしまいます。

二つ目は、いくつもの町が消えてしまいます。その町で、大切にされてきたもの、消えてしまった町に住んでいた人の思い出まで、なにもかもが消されてしまいます。

非核平和学習会に行って学べたことはたくさんありました。もっとたくさんの人に、戦争をやってはいけない理由、おそろしさを知ってもらいたいです。

非核平和学習会で学んだこと

石鳥谷小学校６年　鎌田（かまだ）　灯真（とうま）　さん

ぼくはこの非核平和学習会に参加した理由は広島に落とされた原爆がどのくらいこわいものだったのかを知りたかったからです。

実際に八月五日と六日に広島へ行き、原爆ドームと広島平和記念資料館を見学して学んだことがたくさんあります。

最初に行った原爆ドームは、建物の外側しか残ってなく、壁は焼かれて黒くなり、レンガや窓は溶けて、中にはがれきがたくさんありました。原爆は爆風や熱がとても強く、いっしゅんで建物を破壊するくらいおそろしい核兵器だったことがわかりました。

次に行った資料館では、原爆が落とされる前の広島の町と落とされた後の動画を見て、町はいっしゅんで人や建物が吹き飛ばされ、がれきの町となってしまったことを知りました。展示されている被害にあった人達のボロボロの服や全身が真っ黒になって死んでしまった人の写真を見て、原爆はたくさんの人の命をうばってしまう本当に悲惨なことだと思いました。

特に印象に残っていることは、ガイドさんから説明を受けた本川小学校のことです。本川小学校は原爆ドームに近く、爆心地から四百十メートルしか離れていない一番近い小学校でした。当時小学校では朝の会を行っていて、約四百人が校庭に出ていました。そこに原爆が落とされてしまい、爆風と熱風でほとんどの児童はその場で焼け死んでしまい、生き残ったのは児童一人と先生一人だけだったそうです。自分の小学校の人数よりも多いこども達がその日のうちに死んでしまうなんて信じられなかったです。その小学校のこども達はわけが分からないまま死んでしまい、とても痛くて苦しい思いをしただろうし、夢をかなえることがなく死んでしまい悔しかったと思います。

この二日間の学習会では、原爆はおそろしいもので、二度と使ってはいけないものだと学びました。そして今の平和な暮らしに感謝して、この戦争のおそろしさや悲しい出来事を多くの人達に伝えていけなければならないと感じました。

広島の記念ひには「安らかに眠って下さい　過ちは繰返しませぬから」と書いてあります。僕たちはこのことを守り、世界で起きている戦争をやめるように言っていかなければならないと思いました。

ぼくにできること

石鳥谷小学校６年　柳田（やなぎだ）　春樹（はるき）　さん

「ぼくが出来ることは何だろう？」

毎年８月６日に広島で平和式典が行われていたことを新聞やニュースで見ていました。８月６日は広島に世界で初めて原子爆弾が落とされた日です。多くの人が亡くなり、その後も長い間後遺症に苦しんでいる人がいます。このようなことが二度と起こらないために、ぼくには何ができるかを考えていました。

今年の８月５日と６日、花巻市の非核平和学習会で広島を訪れる機会をいただきました。一日目は原爆ドームと平和記念公園、平和記念資料館を見学しました。原爆ドームはこれまでテレビなどで見ていましたが、実際に目の前に立つと言葉が出ない思いでした。平和記念公園では、２歳で被爆し自分と同じくらいの年に白血病で亡くなった「原爆の子の像」を実際に見て、原爆が長い期間にわたって人を苦しめる恐ろしいものだと思いました。平和記念資料館では、熱さに苦しみ川に入って亡くなった人たちを描いた絵や「人影の石」などを見て原爆の恐ろしさを感じました。

二日目は、平和記念式典に参列しました。式典には岸田総理大臣や国連事務総長（代理）も参列されました。その中で広島市長の「平和宣言」が心に残りました。各国のリーダーにはＧ７の首脳に続き、広島を訪れて平和への思いを発信していただきたいこと、日本政府には平和を願う国民の思いをしっかりと受け止め、世界の橋渡しをしてほしいこと、私たちは「夢や希望がある」という気持ちになれるような環境を整えるため、平和文化を根付かせる取り組みを広めていくことをお話しされました。誰かに求めるだけではなく、自分が出来ることを考える大切さを知りました。

今回の非核平和学習会に参加して僕のできることは、見てきたことをみんなに伝えること、一人一人が違う考えがあることを認め、お互いを尊重することだと思いました。

忘れてはいけない出来事

矢沢小学校５年　佐々木（ささき）　楓夏（ふうか）　さん

今回広島に行って、見て聞いて知ったことがいっぱいありました。特に印象に残っているのが想像以上の被害の大きさです。

今原爆ドームと呼ばれる建物は、昔映画や美術館をしていて、この建物の近く、東京スカイツリーと同じくらいの高さから原子爆弾が落とされました。とても頑丈に造られた建物だったのでドーム中心部分の姿は残りましたが、中にいた職員約三十名はしゅんかん的に亡くなってしまいました。落とされた後の時間は一秒以内のことだったそうです。何が起こったのか分からないまま亡くなってしまったのだと分かりきょうふに感じました。

平和記念公園の中には、慰霊供養塔や原爆の子の像や平和の鐘などがありました。慰霊供養塔は緑の山の地下に骨が入った木箱がありました。その数は二万人以上で、名前が分かる方はたった約二十三人分でした。名前が分かっていても生き残った家族がいなく引き取れない人達と分かり悲しい気持ちになりました。原爆の子の像は折りづるを持った女の子の像で、モデルになったのが当時小学校六年生の佐々木さだ子さんです。さだ子さんは原子爆弾の爆発によって亡くなったわけではありませんが、急に白血病になってしまいました。原因は原爆の放射線で体をすりぬけて体の悪いせっけい図を作ってしまう病気です。病室で折りづるを作り続けた末、亡くなってしまいました。このことで同級生は募金を集め銅像をつくったそうです。今の私くらいの歳のモデルだったと知って、まだまだやりたい事があるのにくやしかったと思い複雑な気持ちになりました。六年生の平和への誓いでも、「原子爆弾は、生き延びた人々にも深い傷を負わせ生きていくことへの苦しみを与え続けた」という言葉がありとても心にひびきました。平和の鐘は丸い屋根が宇宙、鐘には国と国が描かれた地球。これは戦争がなくなりますようにという願いなそうです。

少しの時間でしたが戦争のきょういを知りました。人災はあってはいけない、誰もが悲しい思いをするだけ。人はそれぞれの考えを持っていますが二度とひさんなことが起こらないように人々はよりそえる国々であることが大事だと思います。力でなんとかしようとすることは絶対あってはいけないと思いました。

非核平和学習会に参加して

宮野目小学校６年　小田島（おだしま）　爽士（そうし）　さん

核兵器とはどれくらい危険なものなんだろう。

Ｇ７広島サミットやロシアのウクライナしんこうのニュースなどでよく耳にする核兵器だが、どんな被害があるのかよく分かりません。使っては、いけないものということしか知りませんでした。だから原子爆弾が落とされた広島に行き、その時の被害とこわさを見て、聞きたいと思い参加することにしました。

印象に残っていることは、二つあります。一つ目は、資料館で見たものです。その中で「人影の石」という展示物に目をうばわれました。「人影の石」は、爆弾の熱とい力でまわりが白くなったが、人がすわっていたところだけ、熱があたらず人のあとが残った物です。こんなことが一しゅんで起こったことを知り、とてもこわくて足の力がぬけそうになりました。

二つ目は式典へ参加しあの日を生きのびた人達の想いや気持ちを知ったことです。その中でなぜ「自分だけが生き残ってしまったんだろう」と考え悩み苦しんだ想いを知り、ぼくも一人だけ生き残っていたとしても同じように考えただろうなと心が苦しくなりました。式典では「平和」という言葉がたくさんでてきました。この学習を通してあらためて平和の大切さについて考えさせられました。ぼくが今ご飯を食べられること、スポーツを楽しむこと、友達と遊ぶこと、日常生活を送られること、生きていられること、これだけでとても幸せなんだということも、あらためて感じさせられました。

今世界では、戦争に苦しんでいる国もあり、その国の人たちも、平和な生活をおくってほしいです。そしてもう二度と核兵器を使わない、戦争をくり返さないためにも学んできた戦争のこわさ、核兵器のこわさを、次はぼくがたくさんの人に伝えていきたいと思います。

広島に行って分かったこと・感じたこと

東和小学校５年　及川（おいかわ）　万葉子（まようこ）　さん

「目を開けて、目を開けて」

子どもの名前を呼び続ける半狂乱の母親

一九四五年八月六日午前八時十五分たった一つの爆弾で広島県の多くの人たちの命がうばわれました。

わたしは資料館に行って、平和だった日常が、いっしゅんでたった一ぱつのばくだんでうばわれたことがとても悲しいことだと思いました。原子爆弾が投下される前は、いろいろな建物があり、にぎやかな街だったのが、投下された後は、別の場所に来たかのように何も無くなっていて、ただ見たことのないほどの大やけどをして苦しんでいる人々が多くいて、じごくのような風景だったそうです。

平和記念式典では広島市長や総理大臣などが平和のことなどを話しました。わたしはそれを聞いて、あらためて平和の大切さを感じました。式典には約５万人が参列し、百十一か国もの人々が式典に参加しました。わたしは、もちろんこんなに大きな式典に参加したことがありません。横では、吹奏楽の楽団が静かだけどはく力のある音楽を演奏していました。たくさんの人が亡くなった人や、平和の大切さを祈っていました。わたしがこれまで生きてきた中で体験したことのないような雰囲気でした。

わたしは、今回広島県に行って平和の大切さや原子爆弾のおそろしさが分かりました。

今は、ウクライナとロシアが戦争をしていて、すべての人が幸せにはなっていません。もしかしたら、また原子爆弾が戦争で使われてしまうかもしれません。

平和は、身近にもたくさんあります。けんかをせずに仲良くすることや協力して一人一人が助け合うことなどです。この平和を自分だけではなく、少しずつ他の人に伝えて世界中の人々が安心して暮らせる戦争の無い未来にしていくことが大切だと思っています。

非核平和学習に参加して

八重畑小学校６年　小田代（おだしろ）　純怜（すみれ）　さん

私は今回参加した非核平和学習が、改めて命の大切さについて考えさせられる貴重な経験になったと思います。

まず、平和記念公園に行きました。平和記念公園では、供養塔や慰霊碑などを見学し、たくさんの貴重なお話を聞いてきました。その中でも私が心に残っているものは、「原爆の子の像」と「平和の灯」です。「原爆の子の像」は、唯一子どもの力だけでつくったものだそうです。それを聞いて、私と同じ年ぐらいの子どもたちが佐々木禎子さんの事を広めるために、「原爆の子の像」をつくろうとがんばったのに、私はこれまでだれかのために、そこまでがんばったことがあっただろうかと、自分が情けなく感じました。また、「平和の灯」には、核兵器が無くなるまでは、火を灯し続けるという意味があるそうです。一番最初に原爆が落ちた場所として、核兵器が無くなってほしいという気持ちがすごく伝わってくるものでした。この「平和の灯」を見る多くの人々にも、核兵器が無くなってほしいという思いを共有してほしいという強い願いが伝わってきました。

次に、広島平和記念資料館に行きました。平和記念資料館では、原爆によってこげてしまった服や、被爆してしまった子どもの写真などを見てきました。その中で心に残っているのは、「頭はつが抜けた姉と弟」です。名前のとおり、原爆の放射能により、かみが抜けてしまった姉と弟の写真が展示されていたのですが、その二人の顔には笑みがなく、うれしそうではありませんでした。私も、急にかみが抜けたら悲しくなります。二人も、なぜこんなことになってしまったのかという悲しみと、いかりをどこにぶつけたらよいのかわからず、あのような表情しかできなかったのではないでしょうか。

最後に、平和記念式典に参列しました。式典では、広島市長、子ども代表、内閣総理大臣、広島県知事、国際連合事務総長の平和宣言や平和への誓い、あいさつなどを聞きました。どの言葉も、感動的で私も学校であいさつする時には、人の心にひびくあいさつができれば良いなと思いました。

岩手に戻ってから私は、広島や長崎に原爆が落とされる前にどんなことがあったのかを知るために本を読みました。もし、原爆を落とされる前に戦争をやめていたら、亡くならなくてもよい命がたくさんあったし、生まれるはずだった子どもも、そしてその子どもの子どもも命をつなげられたのだと思うと、くやまれてなりません。

もう二度と広島や長崎のような悲しい出来事が起こってほしくありません。核兵器は、人々の体や心に大きな傷を残す、あってはならない物だということを、一人でも多くの人に伝えていくことが、この非核平和学習に参加させていただいた私の使命だと思いました。

想像と現実

桜台小学校５年　千葉（ちば）　佳杏（かなん）　さん

私は、テレビのニュースなどで「核を絶対に使用してはいけない。戦争は悲さんなものだ。」と聞くたびに、「そんな一言で表現できることなのかな。」「私の想像する核や戦争のイメージは現実にあっているのかな。」と、ぎ問に思うことがありました。学習会に参加したのは、実際に核のひ害にあった広島に行き、自分自身の目で見て考えを確かめたかったからです。

私がこの学習会に参加し、特に印象に残ったことが二つあります。

一つ目は、平和記念公園でガイドさんから話を聞いた時のことです。この公園には、原子爆だんのい力が見学者にも伝わるように、ふき飛ばされたおはかの石などがそのまま残されていたり、爆だんでなくなった人をなぐさめるための慰霊碑が置いてありました。その中で一番心に残ったのは原爆の子の像です。この像は、ひ爆して十年もたってから白血病になり、なくなった小学六年生の女の子や、ひ害にあった全ての子ども達の霊をなぐさめるためのもので、女の子の友達が集めたお金で作られたものだと聞いた時、私はとてもおどろきました。「私と同じくらいの子ども達が、こんなりっぱな像をつくるなんて。」強い思いがあれば、子どもでも大きなことを出来るのだと感心しました。

二つ目は、平和記念資料館を見学した時のことです。ひ爆者達が書いた絵から伝わる悲しみと絶望、写真一枚からでも伝わるほどいたいたしいきず、爆発の熱でゆがんだ建物のかけらや破れた服。私が広島に行く前に想像していたものよりはるかに悲さんな内容で、私は声を失い、見ているうちにすっかり気持ちが落ちこんでしまいました。

広島で体験した核と戦争の現実は、私が想像していたよりずっと悲さんで、本やえい像では伝えきれない部分があると感じました。

私は学習会に参加した者として、核兵器を絶対に使ってはいけないことを、できるかぎり多くの人達に伝えていきたいと思います。